10/2　埼玉県市民ネットワークの代理人
山田ゆう子県議の一般質問を傍聴



傍聴席の前の段には記者席もありました

傍聴者は約90名。身近で大切な問題を考え抜いた言葉で質問しました。



よしかわ市民ネットワーク

◆ **まちかどカフェ**
11月28日(土) 13:30～15:00
@コミュニティスペース くるり

◆ **放射線測定**
11月20日(金)9:30
市役所入口『森と鯰』像前　集合

◆ **12月議会予定**
12月2日(水)～12月16日(水)
傍聴しよう！インターネット配信もあります。

◆ **12月議会 報告会**
岩崎さゆり市議から市政の報告を
12月20日(日) 13:30～15:00
@おあしす　セミナールーム3

よしかわ市民ネットワーク
3つのルール
① 任期は最長３期12年で交代
② 選挙はカンパとボランティアで
③ 議員報酬はみんなの活動費

HP

岩崎さゆりの活動記録



よしかわ市民ネットワークは
岩崎さゆりを市議会に送っています

岩崎さゆりの連絡先
sayur.ing.iwasaki
@gmail.com

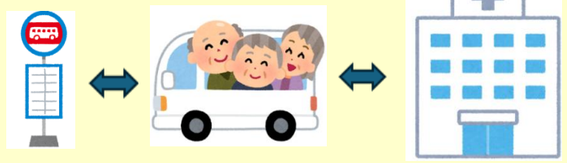
●皆様からのご意見・ご感想
ご入会希望等お問合せはこちら！
MAIL: yoshikawa.shimin.net@gmail.com
FAX ：048-983-1835
●ポスティングボランティア募集中♪
●ご寄付のご協力もお願い致します！
ゆうちょ銀行 038　普通　7744921

吉川市出前講座「吉川市の公共交通について」に参加して

2026年7月24日開催　於 おあしす

今年3月に策定された吉川市地域公共交通計画についての講座に参加し、公共交通利用者減やドライバーのなり手の不足等の現状を伺いました。このままだと、自分が年を取り、バスを必要とする時にはバス便が無くなっているかもしれないと思いました。特に病院行きは切実です。

市はバスの利用を促しますが、バス代も高くなっている今、なかなかそうもいきません。バス会社に補助金などでも協力していますが、市だけでは解決が難しい問題です。



【私達のアイデアを市に届けましょう！】

私たち市民も一緒に考えませんか？例えば、自分の住むエリアの道は良くわかっていますよね。問題の解決のための声・アイデアを広く募集してはどうかと考えました。吉川市都市計画課に、市民が直接アイデアを届けてOKだそうです。



私は中央病院近くに住んでいるので、中央病院入口バス停から、中央病院までの 300mを民間の福祉施設の送迎車で送迎する実験をしてみてはどうかとアイデアを伝えました。

法的な整備も必要ですが、国も福祉車両などの日中活用などについて投げかけています。

【あなたの声を聴かせてください】

私たちよしかわ市民ネットワークは「生活の中で感じる違和感を我慢して愚痴るだけでなく、声に出してみよう！自分達で考えて調べて、行政に伝えよう！誰かにお任せでなく、自分たちのまちを自分達で少しでも良くしていこう！」と設立されました。市に直接話すのが難しかったら、先ずは、私たちにあなたの声を聞かせてください。そして一緒に考え、学びましょう。そして、代理人（市議会議員）を通して、私たちの声を議会に届けましょう。一緒なら自分達でできることもきっと沢山あります。
(M.O.)

発行者 ： よしかわ市民ネットワーク　住所:吉川市栄町 782-1　TEL:080-4902-0284

よしかわ市民ネットワーク

生き活き いきいき レポート

私たちのまち 私たちの手で



第５０号　2026年１０月発行



市議会議員 岩崎さゆり

〈9月議会〉
多くの課題を残したまま 旭小学校の統廃合案　可決

市議会では可決されたが

旭小学校の児童数の減少を受け、今議会で令和10年4月を目途に、旭小学校が関小学校に統合されることが提案されました。岩崎さゆり（会派：平和市民クラブ）は、大きく3点の理由で反対しましたが、賛成多数で可決されました。

【採決結果】

●反対9 （平和3、共産3、自民2、無所属1）
○賛成10 （セレクト6、未来会議2、公明2）

① 子どもの意見が反映されたのか？

<u>統廃合の当事者である子どもたちの意見が、十分に聞き取られ、意思決定に反映されたとは言えない</u>

今年2月16日の教育委員会会議で、初めて「旭小学校及び三輪野江小学校の今後の在り方について」が議題に上がり、その場で旭小学校の統合案が承認されました。

この会議前に、子ども達への聞き取りが行われたランチミーティングはたった1回。検討の初期段階から子どもたちに十分な情報を伝え、時間をかけて意見を聞く必要があったと思います。子どもが安心して意見表明できる環境をつくり、意見を尊重することが大人の役目です。



出典:子ども家庭庁 HP

② 納得と合意が得られぬまま

<u>保護者や地域住民への説明や意見聴取、合意形成が十分に尽くされたとは言えない</u>

旭小学校は地域の大切な財産です。学校の統廃合や学区の変更は、子どもたちの通学や学校生活だけでなく、地域コミュニティーにも大きく関わる問題です。

卒業後どの中学校へ進学するのか等、市内全体の小中学校の在り方や教育環境の改善について、教育委員会会議で議事録に残る議論が必要だったのではないでしょうか。

「旭小学校の未来を考える会」発起人から吉川市議会に、「旭小学校統廃合に関する公正かつ透明な意思決定を求める陳情書」が多くの賛同署名を添えて提出されました。多くの方が、これまでの説明や意見聴取、合意形成が十分ではないと感じていたからではないのでしょうか。

③ 多くの疑問が残る進め方

<u>決定に至るまでのプロセスが不明瞭で、議論が不十分</u>

統廃合における重要な事柄が『いつ』『どこで』『誰が』どのような議論をし、決定されたのかについて、多くのことが議事録に残っていません。

子どもたちや保護者、地域の声を十分に聴き、納得と合意を積み重ねるプロセスこそ大切だと考えます。

以上の3点の理由から、議案に反対しました。



さゆりの毎日コツコツと

『満天の星』上映会＆トークショーで 平和を学ぶ



1944 年、太平洋戦争中にアメリカ軍の潜水艦に撃沈され沈没した学童疎開船「対馬丸」。約800 名もの学童が亡くなりました。

吉川市出身の俳優、寿大聡（じゅだいさとし）さんの祖父、中島高男さんは学童疎開船「対馬丸」の元・甲板員で、数日間の漂流の末に奇跡的に生還されました。

映画「満天の星」は、孫の寿大さんが祖父の中島さんの死をきっかけに、対馬丸の真相を探るドキュメンタリー映画です。

昨年、都内の映画館に行って鑑賞しましたが、8月30日に市民交流センターおあしすで上映会とトークショーがあり、参加してきました。ロビーには沖縄県にある対馬丸記念館からお借りしたパネルが飾られていました。私は数年前、那覇市にある対馬丸記念館や小桜の塔に慰霊の旅で訪れたことがあります。数年が経ち、またここ吉川市で同じパネルを見ることができるなんて思ってもみませんでした。感慨深いです。

映画を一緒に見に行った市民の方が配られたリーフレットに記載されていた『吉川市平和都市宣言』を読んで、「こんな素晴らしい宣言があったなんて知らなかった」と感激していました。私も本当に素晴らしい宣言だと思います。 平和の思いを込めて平和都市宣言を抜粋します。

「わが国は、世界唯一の被爆国として平和憲法の精神にそって非核三原則が遵守されることを強く希望し あらゆる国の核兵器が速やかに廃絶され 文字どおり世界の恒久平和が実現されることを強く願うものである。」



中・高生に知って欲しい　憲法の話 ⑤

「日本国憲法」には他国の憲法に比べ、かなり長い前文があります。

「政府の行為によって二度と戦争を起してはならない。そのためには『平和を愛する諸国民』を信頼することが大事です。国は、自国中心主義であってはならない」と書かれています。

どういう戦争でも、痛めつけられるのは、女性、子供を含む一般国民であり、戦争を望む国民などいないでしょう。今、ロシアはウクライナを攻撃しています、ロシアの国民も戦争など望んでいないでしょう。多くの日本人は、ロシアに批判的です。しかし数十年前、日本は中国に対して同じことをしていたのです。もし日本が中国に侵略などしなかったら、今のような日中関係になっていないでしょう。戦争をすれば、国民同士の信頼関係がこわれ、何十年と続くのです。信頼関係を築くことが何より強い戦争抑止力になるでしょう。

いろいろな国で「あの国が軍備を増やしているから、我が国も軍備を増やさなければ危ない」と、軍備拡大を主張する人や政治家がいます。しかしそういうことを言っている人は、自分は戦争に行くことも犠牲になることもない人です。

では、戦争に駆り出されたり、ミサイルの標的にされるかもしれない一般国民は、どうしたらいいのでしょうか。

憲法前文は、「平和を愛する諸国民が信頼関係を築き、選挙を通じて、自国中心主義でなく、国際法を守る政府を創らなければならない」と言っています。

この憲法に対して、平和を愛する国民が目に入らない政治家は、「今の憲法は外国に日本の平和をゆだねている。情けない憲法だ」と言って、憲法の改正を主張しています。

日本国民が信頼すべきなのは、平和を愛する諸国民＝people of the world であって、「外国の政府」ではありません。皆さんも憲法前文を読んでみてください。（T.M.）



熱気あふれる 全国オーガニック給食フォーラム in 小山（7/25･26）



オーガニックビレッジ宣言をする行政も154に増える今、「オーガニックの現状」、「有機農法」、「農とまちづくりの世界の潮流」についての報告や講演がありました。翌朝には農地視察や生物調査もあり、会場参加は延べ1000人、オンラインも含めると1700人以上の熱気でした。

オーガニックって なんだろう？

オーガニックと聞いて想像するのは、農薬や化学肥料を使わないで作られた農産物でしょうか。もともと農業は生命を維持するための作物を育てる生命型農業でした。それが金銭を得るための産業型農業に発展し、農薬や化学肥料を使うことで、効率よく見栄えの良い商品を作れるようになりました。

特に農業以外の産業で発展を求め続けてきた結果、自然から遠ざかり多様性が失われ、格差が広がり生きづらいと感じる社会になってしまいました。

そこで今見直されているのがスローライフであり、共生、伝統や持続性、多様性。自然に合わせたアナログ思考の有機農業は、現代人が暗に求めている「人間らしく生きる」に繋がると確信するのです。

有機農業者から感じた「誇りと喜び」

有機農業者は自然と対話しながら、生きがいをもって取り組まれていました。虫を敵と思わず天敵と組み合わせることで、人体にも悪影響を及ぼす農薬を使わなくても済むそうです。化学肥料を使わなくても、土の微生物が根を深く張らせてミネラルやビタミンの吸収を促進します。微生物が大事なのは腸内環境と一緒ですね。

何故、オーガニック給食なの？

先ず、子どもたちには元気な食材で健康に育って欲しい。そして、給食は丁寧に育てた農産物の安定した供給先になり、地元で経済が回ります。また、地元の子どもたちの為にという思いは生産者のモチベーションも高めます。国は農地の25％を有機農地にと掲げていますが、供給先が無ければ有機に転換できず、新規就農者も増えません。

吉川市の有機農地は0．7％。子どもたちのみならず、農業者を含め私たち市民全体の未来の為にもみんなで考えていきましょう。

（M.I.）



市内で活動している 団体紹介

よしかわ憲法サロン

よしかわ憲法サロンは2014年9月に発足。当時、安倍首相が憲法改正を活発に発信するようになっていて、それを不安に思った吉川在住の3人の女性によって始められました。そもそも、日本の憲法を知らなければ、改正案について検討・判断することができません。そこで、日本国憲法を詳しく知りたいと思い、会を作ったそうです。気軽に意見を出し合えて、対話しながら学びを深めていけるような会にしたいという願いを込めて『サロン』と名付けられ、お茶とお菓子の準備も定番です。

月1回、テーマを決めて、学習会を行っています。憲法そのものの学習のほかにも、近代史や、「軍備」「原発」「教育」「食の問題」など、生活上の重要なテーマについても取り上げています。定例会は現在131回を迎えました。

日本国憲法は80年前につくられたので内容が古いのでは、と想像するかもしれませんが、今日の SDGs に掲げる「誰一人取り残さない」という理念が、すでに日本国憲法13条の「すべて国民は、個人として尊重される」という基本的人権のなかに貫かれていて、制定されたのは古くても、内容は先進性にあふれていることにハッとさせられます。

学ぶとそこからまた課題が見えてきて、さらに学びたくなる、そんな楽しさが感じられる会です。

毎月の学習会の予定を、広報よしかわの「みんなの広場」に掲載しています。ご興味のある方はお気軽に遊びに来てください。　連絡先：090-4247-8397（池田）